

＜今日の説教のポイント ヨナ書1章＞

短いヨナ書全体を読むことを通して、聖書の奥深さを味わいたい。

1 (1-3) なぜヨナは逃げたのか？ 4章を読んで初めて分かる理由。

ヨナは大帝国アッシリアの首都ニネベで悔い改めを叫ぶ任務に恐れをなしたのだらうと思うかもしれませんが、そうではありません。4章2節を読むと、ニネベの人々が悔い改めたら主は「恵みと憐れみの神」故に罪赦されるのではないかと思っていたからでした。聖書を読む時には、聖書が問題にしていることを考えて読む必要があります。それを追う時に、聖書の奥の深さが見えて来るのです。

2 (4-5) なぜヨナは寝込んでいたのか？ 詩編88遍から分かる理由。

これも普通に考えると、ヨナが神様から逃げられたとあってほっとして疲れが出たのだらうと思うかもしれませんが、しかし、ユダヤ人はこれを読むと詩編 88:5-6 を思うのです(該当箇所参照)。すると、これは「死」、すなわち、神様から遠く離れた状態にあり、神様から逃げたことによって神様の御手にある守り・平安を失った状態にある(詩編 88:1-4)ことを考えるべきなのです。神様から逃げることは、実は神様の恵み・憐れみ・守り・平安からも遠ざかっているのです。

3 (6-10) 「主」(1, 3, 4, 9, 10, 13-16)と「神」(5, 6, 9)は違う。

ヨナ書1章を読むときに大事なことが一つあります。ここに出て来る「主」と「神」が使い分けられているということです。主とは原語のヘブル語ではヤハウエ、神はエロヒームであり、前者は世界を造りイスラエルの民を選んでご自身を示そうとされた神であり(9)、後者は人が「存在する」と思う神、自分で想像する様々な神です(5, 6)。

4 (11-16) 人情味ある主を知らない人々。彼らも主なる神を知る。

同じ船に乗る主なる神を知らない人々は、なかなかヨナを海に投げ込めない人情味ある人たちです。聖書が問題にしていることは、私たちが優しい人間かどうかではありません。もし本当に世界と私たちを造られた神様がおられるなら、私たちはその神様を思い、その神様を大事にして生きなければならぬし、そうする時に人生に真の平安が訪れるということです。この後のヨナ書を読んで行く時に大切なことは、それをヨナに神様が教えようとして下さっていることです。そのことを楽しみにしながら読み続けたいと思います。